

家野町校舎時代：練習環境に勝る恩師の熱意・・・

S 4 1 卒 金丸 裕

今日の練習環境は専用グラウンドがあり、マシンがあり、アドバイスを受けるコーチにも恵まれているなど昭和年代とは大きく進化しています。

家野町校舎時代のグラウンドは私達野球部のほかにラグビー部やサッカー部との共用だったと思いますが、外野を守っていると目の前をラグビー部がパスをしながら横切り、サッカーボールがミスキックで飛んでくるのは当たり前のことでした。

そんな環境の下、まずまずの戦績を残せたのは故人となられた田口監督、尾藤部長が（実技的な指導力は別として）熱意を以って取り組まれていたからではなかったかと思います。



先に誰かが記述されていましたが、外野ノックなどは飛距離が出ないものですから予め私たちが定位置からかなり前の方に守ったことが思い出されます。

伸びのあるライナー性の飛球などは希なことで若干物足りなさを感じるノックではありましたが、しかしそんな実技的なものを超越した両先生の取り組む姿勢・熱意は妙に体感的に私達にも伝わってきて、無意識のうちに懸命に向き合ったことが試合に生かされたものと思います。

またコーチ不在で技術的な知識にも疎い生徒の身にあって、たまたま練習を見に来てくれた先輩からバッティングへのアドバイスを受けたのが印象深く、その後における私の成績にもつながったことに感謝しています。

今の長工野球部は恵まれた練習環境にあります。生徒の皆さんの努力や心構え次第で必ずや好成績につながるものと確信しています。

甲子園目指して頑張れ！ 長工野球部。

※金丸 裕さんは奈良尾出身__俊足（100m11秒3）の1番バッターで中堅手。39年秋九州大会、40年春九州大会、夏は長工初の西九州大会へ出場した。奈良尾クラブの監督兼選手で長崎県下軟式野球大会でも活躍した。（上右写真は第37回長崎県下軟式野球選手権大会（昭和53年）対大瀬戸クラブ戦での決勝ホームランの新聞記事より）尾藤先生の外野ノックはセカンドとライトの間というよりもセカンドの後ろぐらいの飛距離でした。